



# 1年の計は元旦にあり スタートいい月に



今年もよろしくお祈りします。2016年がやってきました。鹿島中の顔として活躍する年、3年生になる準備の大事な時期です。そして、2年生としての、まとめの3学期の始まりでもあります。希望に燃え、目標に向かって前進する1年になることを願っています。スタートである1月をしっかりとした気持ちで過ごし、いい一年にしましょう。

## news!

↓ 11月に姉妹都市の韓国・西帰浦(ソギポ)市から中学2年生20名が来校しました。授業や集会、給食を通して交流しました。国境を越えて、友と有意義な時間を過ごしました。



↑ 2学期終業式での学年代表の抱負発表、立派にできました。

## 前期生徒会



- 会長：小野 男樹 (後列左から2番目)
- 副会長：丹羽 貫汰 (後列右から2番目)
- 書記：内野 愛良 (前列中央)
- 書記：喜多山 隼斗 (後列右端)
- 中村 夕海 (前列左端)
- 会計：乾 優輝 (後列左端)
- 高橋 弥生 (前列右端)



2年生は、3年生から引き継いだ鹿島中の良き伝統を守らなければなりません。後輩の手本となり、学年全体で模範を示す必要があります。責任を感じながら、ますます活躍できる良い集団になってほしいです。楽しみです。

## 学力診断のためのテスト

1月13日(水)に学力診断のためのテストが実施されます。1年間の学習の成果をみるためのもので、茨城県が行っているものです。日程は以下のようになっています。

	開始時刻	時間	教科	準備物
1	8:30	60分	国語	
2	9:40	50分	英語	
3	10:40	50分	数学	三角定規・コンパス
4	11:40	50分	社会	
5	13:35	50分	理科	定規
6	14:35	40分	学活	

- ① 過去の問題を繰り返し学習
- ② 入試の土台となる1~2年の内容を学習
- ③ 最大限の努力



昨年中は大変お世話になり、ありがとうございました。いよいよ3年生になる年の幕開けです。生徒の成長のために、ご家庭と学校がともに歩んでいける1年になりますよう、引き続き、ご理解・ご協力をお願いします。

1	金	元日	16	土	
2	土		17	日	鹿嶋市駅伝大会
3	日		18	月	委員会
4	月		19	火	特別日課
5	火		20	水	学年朝会/諸費再引落日/特別日課
6	水		21	木	特別日課
7	木		22	金	特別日課
8	金	3学期始業式/スベコン/漢字コン	23	土	
9	土		24	日	
10	日	鹿嶋市成人式	25	月	
11	月	成人の日	26	火	
12	火	諸費引落日	27	水	学年朝会
13	水	学力診断のためのテスト	28	木	黙々清掃
14	木	新研究ノート提出スタート/黙々清掃	29	金	
15	金		30	土	漢字検定
			31	日	



## ☆ちょっと一息☆ 『Nの中学生日記』 その2~緊張に負けるな編~

明日から私立高校の入試も始まります。本当にあと1年ですね。安心して受験に臨めるよう、今のうちから積み重ねておきましょう。心も体もたくましく、入試の重圧に負けないよう普段から鍛えておくことも大切です。

なんとか私立高校の試験も済み、次は本命の公立高校。教室の雰囲気もガラッと変わり、あんなに明るく活気に満ちていた教室が、入試に向けて張りつめた空気に包まれ始めました。だれもが一問でも多く解けるように、一つでも多くわかるように、聞いたり教えたりして、一体感で満ちていました。日に日に、せっぱつまっていきようでもありました。勉強のできる子もできない子も、自分を受け入れ、それぞれの目標に向かって、必要な分を吸収しようと思死でした。

いよいよ、入試の日。同じ中学校からの受験者は9人。みんな一緒に電車に乗って行くことにしました。受験票、筆記用具、うわばき、勉強道具、お弁当、電車賃、カバンに入れて準備万端。

ゆとりをもって駅に到着。切符を買って、ホームへ。一人じゃないとどれだけ心強いことか。緊張しながらも、どこかただよ安心感。友とはありがたいもの。

高校のある街の駅を降りると、入試に向かう受験生の群れ。「こんなにもたくさんの人が受けるんだ。」数に圧倒されそうになりながら、流れに乗って歩みを進めていたのを感じています。

体育館集合。カバンはそこへ置き、教室へ移動しました。ピーン。張りつめた空気。緊迫感。人生の中でも一番だったかもしれません。その時…

コロコロコロコロ…劇場のような大音量で鉛筆が転がってきたのです。しかも、自分の方へ。困った。通り過ぎてくれ。お願い！他校の生徒の机から落ちた鉛筆は、隣を通り越して、前へ。同じ学校のコンタのそばへ。音をたてずに、そーっと床へ腕を伸ばし、体勢は崩さず、目は前を見て、拾ったのでした。コンタが。その鉛筆を。

何事もなかったかのように、重苦しい沈黙の時間は、まだまだ続くのでした。 つづく